

第3回 番組審議会 議事録

1. 開催日 令和6年11月19日 17時から18時まで
2. 開催場所 四万十市天神橋商店街 フリースペース
3. 委員出席 委員総数5名 出席委員数4名

<出席委員氏名>

山崎 文久
寺尾 真吾
友永 公生
野元 道子

<欠席委員氏名>

杉本 絢哉

4. 議題

- ① 審議番組の放送内容について
- ② 次回開催日程について
- ③ その他

5. 審議番組の内容について

審議番組 Twelve Noon HATA「幡多一品絶品」
審議対象回 2024年10月18日(金) 12:00~12:54
提供 関西コミット

審議対象の番組については各委員に事前にお聞きいただき、以下の通り意見交換があった。

(委員) FM はたらんどの放送における倫理基準と照合しながら聴いたところ、概ね基準内であったと感じる。一方で、“〇〇に効く”という表現は、当事者において一定の配慮はされていると思うが、エビデンスが明確でない場合は特に放送上気をつけた方がよいと考える。

(委員) ゲストの方は塩作りにおいて一般的に知られた方だが、私にとっては同じ町内ということからも、この方が全国的にもいかに貴重な存在ということが分かっている。この点、際立たせて欲しかった。

(委員) 製塩と自然保護活動が密接に関わっていることについて、原子力発電所問題に触れた場面があったが、もう少し踏み込んだ話も聴いてみたかった。

(委員) 地元ならではの方言がでていたこと、トークとBGMのバランスや掛け合いなどは耳障りが良かった。
一方で、相槌の打ち方ひとつでも印象は変わってくる。

(委員) ゲストの方が30分近くずっとお話されていた場面があったが、ここはパーソナリティーが曲を挟むなど合いの手を入れると、ゲストもより話しやすくなるのでは。

(委員) 製塩の舞台が黒潮町ということなので、様々なリスナーがいることを想定し、黒潮町はどんな町なのか、例えばTシャツアート展やホエールウォッチングのこと、或いは「佐賀」という地域に触れたりすると、特に県外の方へのPRになると感じた。

(委員) 今回はなぜこの番組が審議対象として選定されたのか。

(事務局) 1人トークより2人トークの掛け合いがあって審議に相応しいこと、また、外部のゲストの方を迎えた番組においてパーソナリティーがその方のことを引き出しているかということは放送上とても重要であることから選定した。

(委員) 実食の場面では「塩」の表現は難しいと感じつつも、“ソルティードッグ”を引き合いに出したのは面白かった。

(委員) “海の結晶”や“山の結晶”という表現、そして塩にも山の養分が含まれるお話は聞き応えがあった。

(委員) 地上波が届く範囲は四万十市と黒潮町の一部のみだが、放送の範囲や構成はどのように考えているか。

(事務局) 地上波の範囲に関係なく、幡多内外、ひいては高知県外の方々にとっても魅力ある情報を発信し、行動を促してまいりたい。また、放送上の倫理基準等も遵守しつつ、幡多密着のコミュニティ放送局として“素人感”も大切にしていきたい。

6. 次回開催日程について

第4回番組審議会は来春に開催予定で、詳細はおって調整させていただきたい旨事務局より説明があった。

7. 審議機関の答申又意見の概要の公開

第3回番組審議会の概要は、FMはたらんどホームページで公表する旨、事務局より説明があった。